

第6学年国語科学習指導案

平成30年6月27日(5)校時

6年 児童数39名

指導者 大野 香奈

1 単元名 「人物のここがすごいぞ！」交流会をしよう

教材名 「風切るつばさ」(東京書籍6年)

【身に付けさせたい資質・能力】	【設定した言語活動とその設定理由】
【知・技】ク 比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと	【言語活動】人物関係図を使って、人物の心情の変化に付いて考えたことを交流し合う。
【思・判・表】Cイ登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	【理由】人物関係図にまとめることで、それぞれの人物の役割や互いの心情が押さえられ、中心となる人物の気持ちをより深く理解することができると考えたから。
【学びに向かう力】言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする態度を育てる。	

2 単元について

単元観

- 指導事項は、C読むこと「エ登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」である。
- 本教材は、中心となる人物の心情が他の人物との関わりを通して大きく変容する物語である。中心となる人物の心情が内心語に多く現れており、心情の変化が捉えやすい。さらに、登場人物が限られており、それぞれの関係や行動が中心となる人物に大きく影響を与えることが分かりやすい教材文である。人物の心情が、翼の音や情景描写にも表れており、文章表現の効果を味わうこともできる。
- 本単元では友情をテーマとした物語を読み、「人物のここがすごいぞ！リーフレット」にまとめ、自分の考えを伝え合うことを言語活動として、位置付ける。ここでとりあげるリーフレットには、人物と人物の関係をまとめた人物関係図や心情が変化することにつながる出来事、登場人物のここがすごいと思った行動やそう思った理由をまとめる。

児童観

- 5年生5月の「世界でいちばんやかましい音」では、物語の構成をとらえ、山場で起きた変化について考える学習をしている。自分と友だちとの考えの相違点を比べながら聞き合い、「山場交流会」を通して、自分の思いを広げ深めていくことができた。
- 昨年度の高知県学力定着状況調査の、「読む」領域では、物語を読み、登場人物の心情として当てはまらないものを選ぶ」の問題で正答率64.1Pと期待正答率を-5.9P下回っていて、叙述と関係付けて、登場人物の心情を捉えることに課題が見られた。叙述からの読みとりに弱さが見られるため児童の実態を重視しながら対話をとりいれ活用してゴールを目指していきたい。

指導観

- 第一次では、「人物のここがすごい」と思ったところについて根拠を示しながらリーフレットに書き交流するという単元のゴールを示し、興味を持てるような導入を図る。そして、人物関係図を使って中心となる人物の心情の変化を考えるという学習課題を確かめ、交流するためにはどんな学習が必要なのかを自分たちで考え学習計画を立て、主体的な学びを目指していく足掛かりとする。
- 第二次では、クルルとカララの関係に着目して、人物関係図をまとめ、中心となる人物の心情の変化について考えていく。その際、物語の中で使われている描写や表現の工夫に気づかせたい。登場人物の心情は、直接描写されている場合もあるが、登場人物の関係に基づいた行動や会話、情景等を通して、暗示的に表現されている場合もある。このような表現の仕方にも注意し、想像豊かに読むことを大切にしたい。そして、風切るつばさの「人物のここがすごいぞ！リーフレット」を使って交流をし、互いの考えを明らかにしたり、よさを認め合ったりする活動を通して自分の考えを広げさせたい。
- 第三次では、並行読書で読んだ本の中から自分の気に入った物語を選び、第2次で身に付いた力を活用してリーフレットを作る。そして「人物のここがすごいぞ！交流会」をし、さらに考えを広げていくことを目指したい。

3 単元の目標

○人物どうしの関係をとらえながら、中心となる人物の心情を読もうとしている。

【関心・意欲・態度】

◎中心となる人物の心情の変化を、人物どうしの関わりを考えながら読むことができる。

【C 読むこと (1)エ】

○物語の中で使われている表現の工夫に気づき、人物の心情を考えることができる。

【言 (1) イ (ケ)】

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
①人物どうしの関係をとらえながら、中心となる人物の心情を読もうとしている。	①中心となる人物の心情の変化を、人物どうしの関わりを考えながら読んでいる。	①物語の中で使われている表現の工夫に気づき、人物の心情を考える手がかりにしている。

5 指導と評価の計画 (全8時間)

		めあて	評価規準【評価方法】	学び	評価
第一次 1	1	・これからどんな力をつけていけばいいのだろう。リーフレットを基に、学習計画を立てよう。	・物語を読むことに関心を持ち、人物と人物との関係に着目して物語を読もうとしている。【発言・ノート】	主	関①
	第二次 5	2	・内心語や描写、会話などに着目し、人物と人物の関係を人物関係図に表そう。	・登場人物それぞれが、どのような気持ちでいたのかを想像しながら読んでいる。【ノート・人物関係図】	対
	3	・表現の工夫や会話などに着目し、人物関係図を手がかりに、中心人物の変化をとらえよう。	・表現の工夫や会話を見つけながら心情の変化を考えている。【ノート】	対	読① 言①
	4	・クルルとカララの関係に着目しながら、人物関係図に表し、心情の変化を読み取ろう。	・表現の工夫や会話を見つけながら心情の変化を考えている。【ノート】	対	読① 言①
	5	・人物関係図と心情の変化に着目して、「人物のここがすごいぞ!」をまとめよう。	・人物関係図と心情の変化を参考にしながら「人物のここがすごいぞ」を書こうとしている。【リーフレット】	主	読①
	6 (本時)	・自分の考えたテーマとその理由を、根拠を基に伝え合おう。	・交流を通して、人物相互の心情の変化に対する考えを、広げたり深めたりしている。【ノート・対話】	対 深	読①
第三次 2	7	・前時までにつけた力を基に、自分の選んだ物語の「人物のここがすごいぞ!」リーフレットをまとめよう。	・自分が選んだ本の中の人物の関係を読み取り、これまでの学習を基にしてリーフレットにまとめている。【リーフレット】	主	読①
	8	・人物関係図と心情の変化に着目して、リーフレットの題と、その根拠を交流しよう。	・物語を読んで考えたことを、本文の叙述と自分の考えとの関係を考えながら伝え合っている。【ノート・対話】	対 深	読①

付けたい力に向けた言語活動

人物関係図を使って、人物の心情の変化について考えたことを交流し合う。

児童の実態

叙述と関係付けて、登場人物の心情を捉えることや、叙述からの読みとりに弱さが見られる。

本単元で児童に付けたい力

◎人物の心情の変化を、人物どうしの関わりを考えながら読む力【C (1) エ】

第一次
1
(導入)

学習の流れと評価計画(全8時間)

主体的な学び

- 学習課題を確かめ、学習の計画を立てる。[1]
- ・人物どうしの関係をとらえながら人物関係図に表し、中心となる人物の心情の変化を考えてテーマを考える学習課題を確かめる。【関①】

対話的な学び

深い学び

- 登場人物の関係に着目して、人物関係図に表し、人物の心情の変化について考え、リーフレットにまとめる。[5]
- ・主な登場人物を人物関係図に表し、人物と人物の関係を確かめる。【読①】
- ・表現の工夫や会話などから、中心人物の心情の変化を捉える。【読①】【言①】
- ・人物のここがすごいと思った行動や言葉から、自分の考えをまとめる。【読①】

本時

- ・人物と人物との関係を手がかりにし、自分で考えたテーマと、その根拠を交流し合い、読みを深める。【読①】

対話的な学び

深い学び

- 気に入った物語のリーフレットを作り、交流し合う。[2]
- ・並行読書で読んだ物語を選び、リーフレットにまとめる。【読①】
- ・人物と人物との関係を手がかりにし、自分で考えたテーマと、その根拠を交流し合い、単元の振り返りをする。【読①】

並行読書

第二次
5
(展開)

第三次
2
(発展)

7 本時における研究テーマとのかかわり

本時の目標

自分の考えたテーマとその理由を、根拠を基に伝え合うことができる。

本時の評価規準

☆交流を通して、人物相互の心情の変化に対する考えを広げたり深めたりしている。

支援

※グループの対話の時に、何について話し合うのか視点を明確にする。

主体的な学びにつながる手立て

- ・前時の学習を想起させ、めあてをみんなで考えていく。
- ・ふり返りで、新しく発見したことや気づいたことを書かせることで、学びの自覚化を図る。

深い学びへ向かう手立て

- ・人物相互の関係や、物語全体を、自分で考えた適切な言葉で表し、物語のテーマとすることで深い学びにつなげる。

軸となる言語活動

○ 物語全体を自分の考えたテーマで表現し、それを友だちと交流し合うことで考えを広げたり深めたりする。

思考・判断

- ・友だちの考えたテーマのすごと思ったところや、なるほどと思ったことをノートにメモしながら交流する。
- ・みんなのテーマを聞いてみて、自分のテーマについて個人で推敲する。

表現

- ・根拠を明らかにしながら、リーフレットを使って、友だちに自分の考えた理由とテーマを伝え

対話的な学びを実現するための手立て

- ・自分と友だちのテーマとその理由を、リーフレットを使って根拠を明らかにしながら対話させる。
- ・友だちのすごいと思うところや、新しく気づいたことを、メモをしながら交流させる。

8 学習の展開（全8時間）

第二次 5時間目（6/8）

(1) 目標 自分の考えたテーマとその理由を、根拠を基に伝え合うことができる。

(2) 展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 (○) 支援 (※) 評価 (☆)、主な発問 ^発
見 通 す	1. 今までの流れを確認する。 ・人物関係図で人物の関係をまとめたね。 ・人物関係図で表すと人物の変化や心情がわかったね。 2. 本時のめあてをつかむ	○「学習の流れ」で確認する。 ○予習を確認し、課題意識を持たせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 自分の考えたテーマとその理由を、根拠を基に伝え合おう。 </div>	
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. 自分が考えたテーマを中心に、友だちと伝え合う。 ・自分と友だちのテーマとその理由を、リーフレットを使って根拠を明らかにしながら対話する。 ・友だちのすごいと思うところや、新しく気づいたことを、メモをしながら交流する。 <div style="text-align: right;">【グループ】</div> 4. 全体の中から、聞いてみたいと思うものについて考える。 <div style="text-align: right;">【全体】</div> 5. 自分のテーマについて推敲させる。 <div style="text-align: right;">【個人】 → 【グループ】</div>	○友だちの考えたテーマのすごかったところや、なるほどと思ったことをノートにメモをさせながら交流させる。 ※グループの対話の時に、何について話し合うのか視点を明確にする。 ☆交流を通して、人物相互の心情の変化に対する考えを、広げたり深めたりしている。 <div style="text-align: right;">(ノート・対話)</div> ^発 友だちとの交流を通して、良かったと思うところや、新しい気づきはありましたか。 ○みんなのテーマを聞いてみて、自分のテーマについて個人で推敲させ、グループで交流させる。
ま と め 振 り 返 る	4. 今日の学習をふり返る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 家庭学習 自分の選んだ物語の中心人物を考え、人物関係図にまとめてくる。 </div>	○交流から、どんな新しい発見や気づきがあったか、これからの学習にどんなことが生かせるのかの視点で振り返りを書かせる。

9 準備物

ホワイトボード・全文掲示